

御挨拶



越谷市教育委員会 教育長 吉田 茂

本市では、「いきいきとだれもが夢に向かって輝く越谷教育プラン—第3期越谷市教育振興基本計画—」を策定するとともに、指導内容の充実と指導方法の工夫改善の一環として、市内全校による第2期小中一貫教育の研究実践を進めております。

大袋小学校、大袋東小学校、大袋中学校の3校では、研究主題を「自ら学び、自ら鍛え、自他を尊重し、社会に主体的にかかわる子どもの育成～自信と誇りを育む学校・家庭・地域の取組～」とし、小学校ではY（読み）、K（書き）、C（コミュニケーション）、中学校ではYKCを含む各教科の「見方・考え方」に重点を置いた授業づくりに取り組み、基礎基本の定着、論理的思考力の向上に向け、着実に研究を進めております。3校の研究成果が、御参会の皆様への教育実践に生かされることを切に願っております。

結びに、これまで熱心に研究を推進された大袋小学校 重岡 勝之校長先生、大袋東小学校 鈴木 秀明校長先生、大袋中学校 小林 昭生校長先生をはじめ、3校の教職員のたゆまぬ努力に敬意を表するとともに、常に温かい御協力、御支援を賜りました学校運営協議会委員の皆様、保護者や地域の皆様へ感謝申し上げます。

越谷市立大袋中学校長 小林 昭生
越谷市立大袋小学校長 重岡 勝之
越谷市立大袋東小学校長 鈴木 秀明

大袋中学校区3校では、令和2年度から6年間の第2期「小中一貫教育」の越谷市教育委員会研究指定校として、共同研究に取り組んでまいりました。この度は、第2期の「小中一貫教育」大袋中学区研究発表会を開催し、これまでの研究の成果の一端を発表できますことに、心より感謝申し上げます。

さて、本中学校区では、研究主題を「自ら学び、自ら鍛え、自他を尊重し、社会に主体的にかかわる子どもの育成」、副題を「自信と誇りを育む学校 家庭 地域の取組」として研究を進めております。3つの部会で提案された取組に基づき、3校合同で実践してまいりました。その成果が、児童生徒の姿に確実に反映され、また様々な数値に良い結果として表れている状況にあります。それと同時に新たな課題も明らかになってまいりましたので、今後、その課題を解決し、より社会に主体的にかかわれる児童生徒の育成に努めてまいります。

結びに、本研究の推進にあたり、ご指導賜りました、越谷教育委員会教育長吉田茂様をはじめ、多くの指導者の皆様方に深く感謝申し上げます。また、本市教育委員会の皆様にもこれまでのお力添えに深く感謝申し上げます。

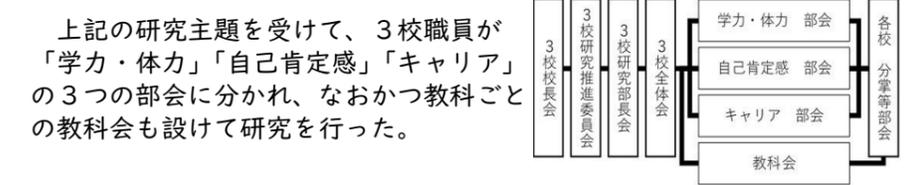
御指導いただいた先生

草加市立長栄小学校長
春日部市立牛島小学校長
越谷市教育委員会教育長
越谷市教育委員会学校教育部長
越谷市教育委員会学校教育指導課長
越谷市教育委員会学校教育センター所長
越谷市教育委員会学校教育指導課調整幹
越谷市教育委員会学校教育センター調整幹
越谷市教育委員会学校教育指導課主任指導主事
越谷市教育委員会学校教育指導課主任指導主事
越谷市教育委員会学校教育センター主任指導主事
元越谷市立東中学校長
元越谷市立中央中学校長
越谷市立平方小学校長
越谷市立中央中学校長
越谷市立西中学校長
越谷市立北陽中学校長
越谷市立光陽中学校教頭

川村 亜希子 様
加賀谷 徳之 様
吉田 茂 様
青木 元秀 様
千嶋 淳一 様
菊池 邦隆 様
二瓶 剛 様
浜崎 重靖 様
三浦 亮介 様
櫻井 亮太 様
朝比奈 亮亮 様
元 裕彦 様
小 林 俊夫 様
古 橋 立哉 様
石 山 秀樹 様
中 田 英治 様
吉 岡 清 様
伊 東 猛 様

研究の概要

【本ブロックの研究主題】
『自ら学び、自ら鍛え、自他を尊重し、社会に主体的にかかわる子どもの育成』
～自信と誇りを育む学校・家庭・地域の取組～



上記の研究主題を受けて、3校職員が「学力・体力」「自己肯定感」「キャリア」の3つの部会に分かれ、なおかつ教科ごとの教科会も設けて研究を行った。

特に学力向上に関しては、3校で共通する課題として、基礎基本の定着と論理的思考力が課題となっており、今回の研究でも力を入れているところである。そこで、本ブロックでは「見方・考え方」を働かせた授業づくりに取り組んでいる。小学校ではY（読み）、K（書き）、C（コミュニケーション）を軸にした授業を展開し、中学校では発達段階を考え、YKCから「見方・考え方」と名前を改め（YKCを内包しているため）授業を展開し、学習活動の充実と授業改善を行っている。

<小学校>

- 【Y・読み】「課題を見出し、把握する力」「情報を精査・解釈する力」
- 【K・書き】「目的に応じて、相手に分かりやすく、論理的に記述する力」
- 【C・コミュニケーション】「相手との共通点・相違点を整理して聞く力」「相手に分かりやすく論理的に説明する力」

<中学校>

【見・考】授業の流れを示す「板書（プロセス）カード」に「見方・考え方」カードを加え、生徒と共有できるようにしている。



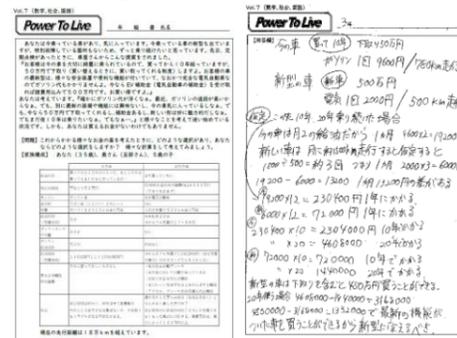
【小学校における教科担任制の導入】

小学校では、中学校へのつながりを円滑にするために、高学年において教科担任制を導入している。教師は特定の教科の準備に専念できるため、より深い教材研究ができることとともに、児童はより専門的な授業を受けることができる。また、教師の働き方にも寄与することができている。



【中学校における教科等横断的複合的問題の実施】

中学校では、総合的な学習の時間を使い、継続的に行っている探究学習とは別に、意図的に教科等横断的かつ複合的に作成した問題に取り組ませている。日常生活に結びついた内容で教師が問作することで、まず教師が教科等同士のつながりや日常生活とのつながりを「意識」するようにしている。そして生徒が、各教科等で学んだ見方・考え方を働かせながら問題を解決できるようにしている。



学力・体力部会

学力部会の取組

- 1時間中の授業の流れと児童生徒が今、何をすべきかが理解できるように、「板書(プロセス)カード」「YKCカード」で可視化する。
- 越谷市授業における8つのポイントの特に「振り返り」に重点を置く。振り返りを書くことで、児童生徒がその時間や単元での学びを自覚し、更にもっと書くために、授業で学んだこと、それが何に生かせるかを「考える」ことに繋げる。
- 「振り返り」から児童生徒の学習内容への理解や疑問等を確認し、次時以降、より良い授業が提供できるよう教員の授業改善や指導力向上に生かす。

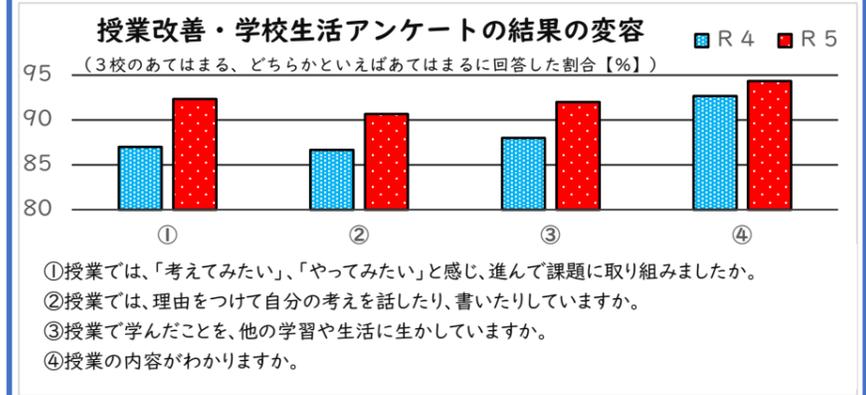


体力部会の取組

- ハンドサインを統一し、9年間に繋がる学習規律を揃える。



- ICT活用を積極的に行い、Y、K、Cの活動の充実を図り、主体的な学び、対話的な学び、深い学びに繋げる。



【成果】

- 児童生徒の学習に対する意欲が全体的に高くなった。特に、授業で「考えてみたい」、「やってみたい」と感じ、進んで課題に取り組んでいると感じている児童生徒が増えた。
- 振り返りの習慣ができたことと、理解や定着などを見取ることができ、教師の授業の進め方の改善や工夫に繋げることができた。また、児童生徒の思考を促す学習活動を実践することができた。
- 体育科でも、話し合い活動が活発かつ効率よく行うことができた。

【課題】

- 引き続き、教員が振り返りを次の授業に生かす意識と、児童生徒が本時・本単元の学びを次の学習や生活に生かし、問題解決する意識が必要である。
- 体育科では、振り返りの時間確保により、十分な運動量を確保するための計画を練る必要がある。

